

## 第 8 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム 「男女共同参画と社会」に参加して

国立遺伝学研究所

高橋 文

2010 年 10 月 7 日和光の理化学研究所にて行われました男女共同参画連絡会シンポジウムにお茶の水女子大学の松浦悦子幹事とともに出席しました。遺伝学会からは、例年通り男女共同参画活動についてのポスター発表を行いました。以下、シンポジウムの内容について、午前の部、午後の部にわけて簡単に報告します。

午前の部は 3 つの分科会に分かれ、第 8 期連絡会にてテーマごとに行われているワーキンググループ活動の報告がありました。私は、分科会 A「学会を含むリーダーシップ活動の機会均等」へ参加しました。この分科会のワーキンググループ活動へは、遺伝学会も大会講演者男女比などについて、データ提供という形で協力しています。まず大坪久子 日本大学教授によるワーキンググループの主旨について説明がありました。この中で、女性のリーダーシップの育成にとって女性にも男性にもある無意識のバイアスがどのように作用しているかを分析する必要があると言われていました。これは時間をかけてワーキンググループで取り組むべき深い問題であると感じました。まず、分子生物学会を主体とする複数の学会大会（遺伝学会を含む）における講演者男女比などの分析についての発表が 2 件ありました。一般講演に比べてシンポジウム/ワークショップにおける発表者の女性比率、またシンポジウム/ワークショップのオーガナイザーや座長の女性比率が低いというデータをもとに、いろいろな分析データを発表されていて興味深かったです。一例では、シンポジウム/ワークショップのオーガナイザーに女性が入った場合に、そのシンポジウム/ワークショップにおいて女性が発表するケースが多いというデータもありました。その後、末岡多美子 コロラド大学名誉教授による米国での 30 年間に渡る男女共同参画政策の歴史についての講演、久保真季 国立女性教育会館理事による米国 NSF との共催で行われたエンパワーメントと新領域創成に向けた日米シンポジウムなど実践例についての発表がありました。この分科会を通して学会の中で女性の **visibility** を上げていくことがリーダーシップの育成につながっていくのではないかという視点が、改めて印象的でした。

午後の部の全体会議 I では、文部科学省、内閣府からの来賓挨拶や大熊健司 理化学研究所横浜研究所所長の挨拶、茅幸二 理化学研究所次世代スーパーコンピュータ開発実施本部副本部長、相澤益男 総合科学技術会議議員による講演などが行われました。その後約 1 時間のポスター発表の後、全体会議 II において 6 つのワーキンググループ世話人及び、JST、旭化成から来ていただいた二人のコメンテーターがパネリストとなりパネルディスカッション「男女共同参画のこれから」が行われました。時間が押していたため、ディスカッションの時間がほとんどなかったのがやや残念でしたが、特に研究者のワークライフバランス WG、大規模アンケート調査のフォローアップ WG による分析の中で、女性は配偶者を

持つ、更に子供を持つと、全仕事時間も減少するが、在職場時間が減りその分自宅仕事時間が増えるというシフトが起こるが男性には起こらないというデータがあり、特に女性研究者のワークライフバランスの難しさを感じさせられました。

今回このシンポジウムに参加して、客観的なデータをもとに難しい課題である男女共同参画の実現への具体的な政策提言をしていこうという約70学協会が参加する連絡会のエネルギーに刺激を受けました。またより広い意味で、優れた研究者を正当に評価するという学会機能の重要性、科学の方向性や人材育成に果たす学協会の実務的な役割が大きいことに気づかされ、大変勉強になりました。